

第7回GX実行会議

「我が国のグリーン・トランスフォーメーション実現に向けて」

2023年8月23日

三菱商事エネルギーソリューションズ株式会社

代表取締役社長 岡藤裕治

GX実行会議（第7回）レジュメ

1. はじめに

- GX実現に向けては、CNの達成と共に日本の産業競争力の強化に繋がることが必須であり、GX移行債20兆円による投資促進策導入の後を見据え、日本の産業競争力を国際的にどう高められるかという視点が非常に重要。
- 産業競争力の強化の為に、技術開発と社会実装は勿論重要だが、その源泉にあるのはエネルギーのコスト競争力であり、再エネやグリーン水素を如何に安価に安定的に、そして早期に供給出来るかが日本の産業競争力強化を図る上でのカギ。

2. 「成長志向型カーボンプライシング構想」に関わる投資促進策について

- 投資促進策の導入に際しては、既往技術であっても再エネコストの中長期的な低減に資する施策への集中的且つ重点的な支援が必要ではないか。例えば再エネ設備のサプライチェーン構築への支援や、再エネ事業者の抱える様々なリスクの一部を政府が取ることで事業リスクの低減を図り再エネコストの低減につなげていく施策など。
- 再エネコストの低減策に加え、再エネや原子力等のクリーンエネルギーの偏在性による地域間値差を早期に解消して安価に安定的に国内で流通させる為には、地域間の広域連系線の強化や直流海底送電線の早期敷設について重点的な支援が必要ではないか。

3. GX取組みの国際的な展開について

- 安価な再エネコストに基づく競争力のあるクリーン製品普及の為の国際評価手法の確立や、共通のガイドラインの策定において、日本が主導的な役割を果たすことを期待したい。
- 特に、東南アジア市場は付加価値のある日本発のクリーン製品を流通させる為に日本が主導力を発揮すべき市場であり、AZECの枠組みの活用等によって、東南アジアの国内に環境特区を設置し競争力のある再エネ調達とクリーン製品の普及を促す仕組みを検討してみようか。

4. GXリーグについて

- GXリーグは支援を先行させ、追ってカーボンプライシングによる財源確保・民間負担を進めるものであるが、GHG削減に向けた各種取組みが進まないと、2030年のNDC達成に向けた将来の負担のみが課されることを懸念する産業界は国内での生産規模の縮小や生産拠点の海外移転を進める可能性が高い。
- このような負のスパイラルを回避し、脱炭素社会に適合的な競争力ある産業基盤を構築していくためには、「排出削減貢献量」に関するルールメイキング等、GX市場を狙った新規投資環境の整備が重要。官民一体となった取組みに期待したい。